

PDN Lectures

Chapter 1. PEG

7. その他経腸栄養アクセス

1. PTEG(前編)

講師 東京女子医科大学八千代医療センター
外科診療部消化器外科 大石英人

1. PTEGとは

2. 適応

3. 禁忌

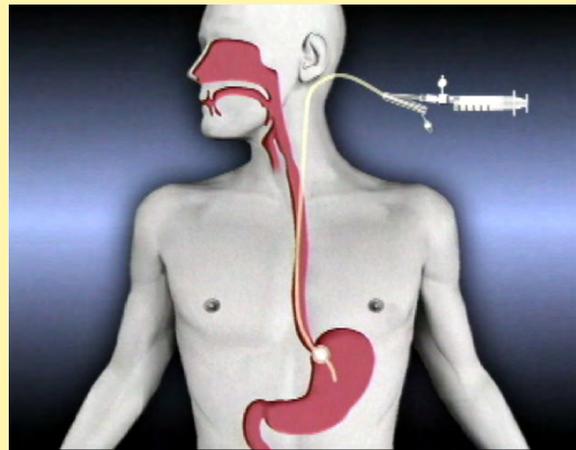
4. 造設

5. 術後管理

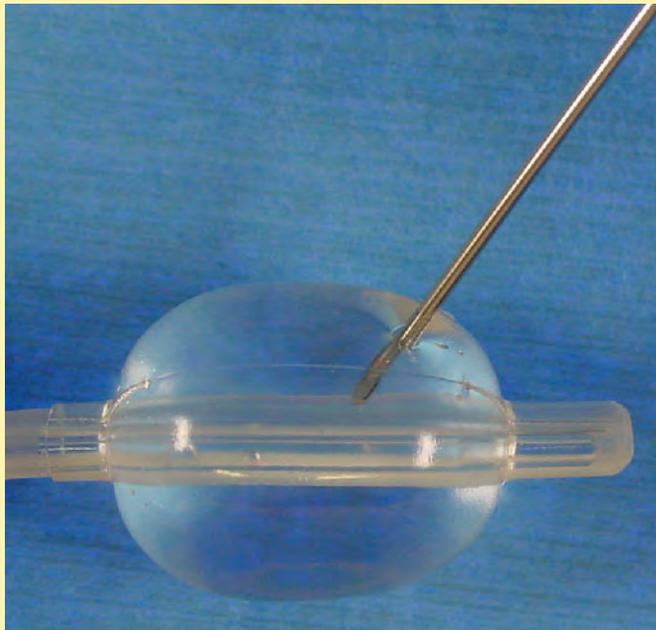
1. PTEGとは

1. PTEGとは

Percutaneous **T**rans - **E**sophageal **G**astro - tubing
経皮 経 食道 胃 管挿入術
の略で、ピーテグと呼んでいます。

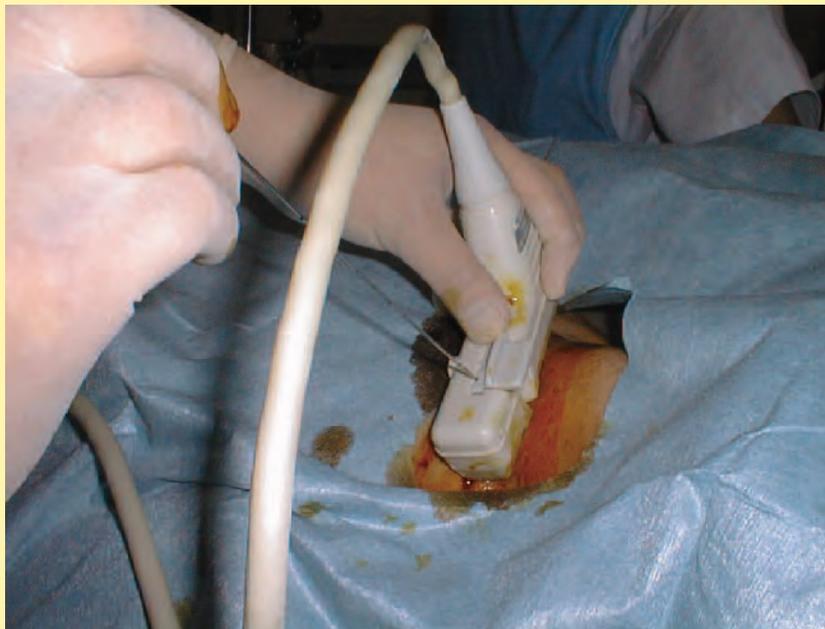


1. PTEGとは



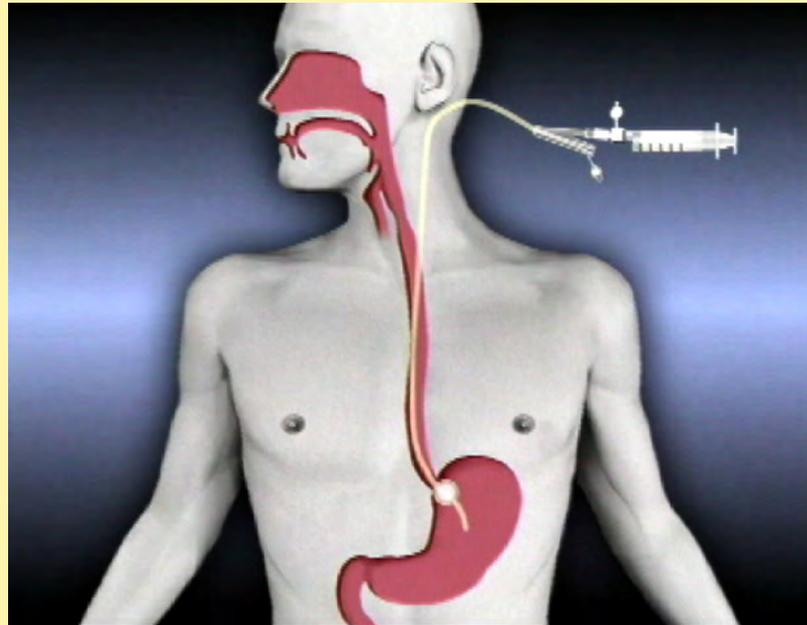
非破裂型穿刺用バルーンRupture-free Balloon (RFB)を用い、

1. PTEGとは



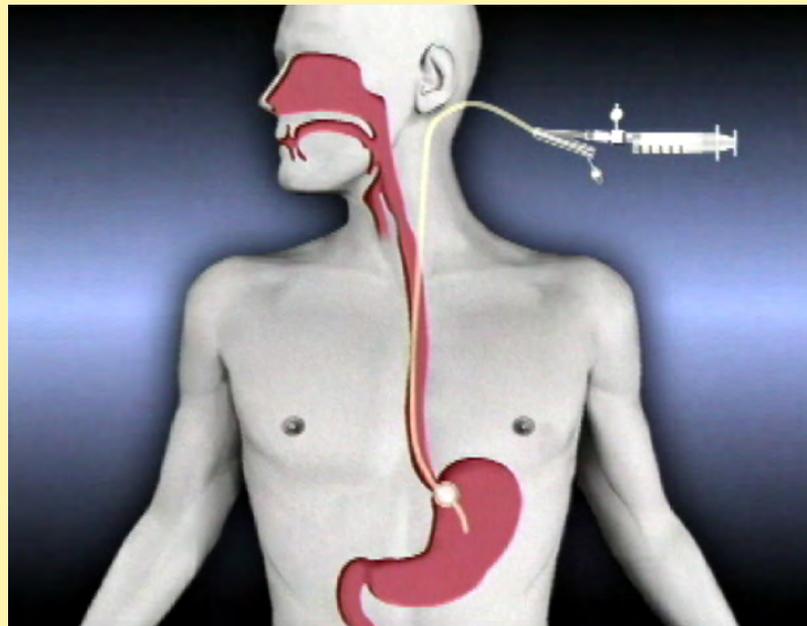
超音波下に頸部食道を穿刺し、頸部食道瘻を造設し、

1. PTEGとは



同部から留置チューブを食道内へ挿入し、

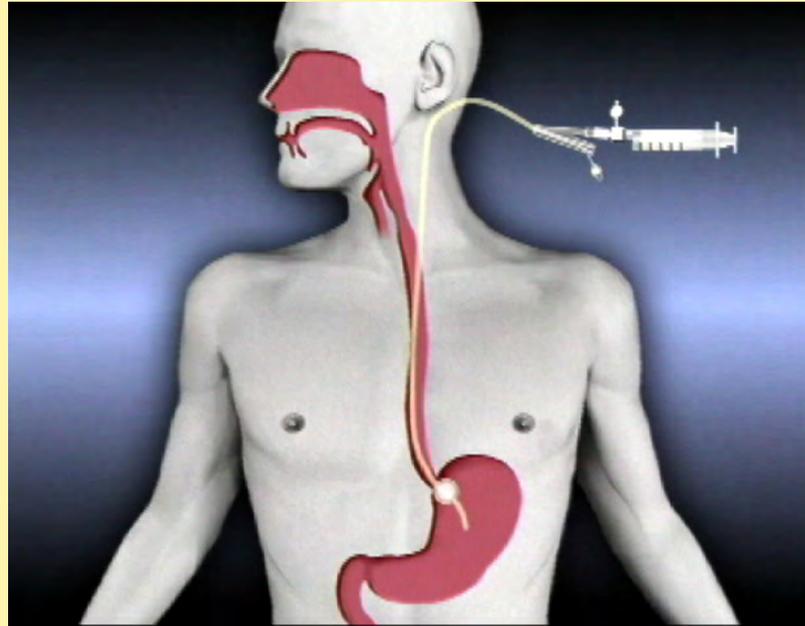
1. PTEGとは



胃や十二指腸もしくは小腸までX線透視下に誘導し留置する。

1. PTEGとは

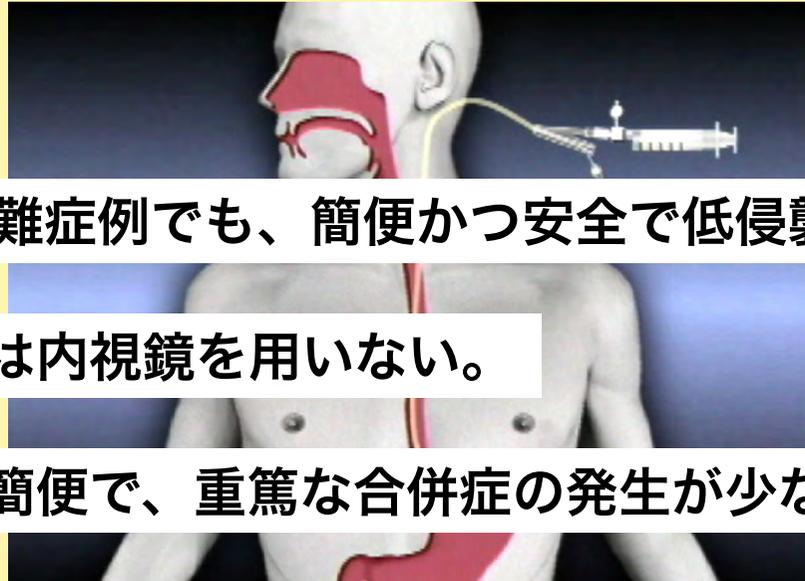
消化管のIVR



non vascular Interventional Radiological Technique

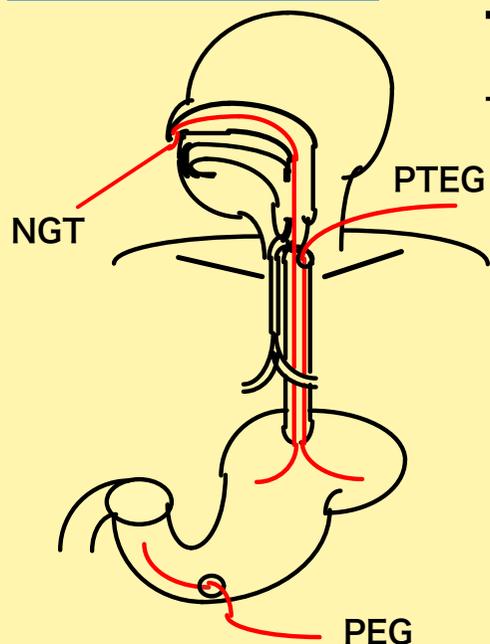
1. PTEGとは

特徴



- PEG実施困難症例でも、簡便かつ安全で低侵襲に造設が可能。
- 標準手技では内視鏡を用いない。
- 術後管理も簡便で、重篤な合併症の発生が少ない。
- PEGと同様に、主に経管経腸栄養法や腸管減圧法に用いられる。

1. PTEGとは



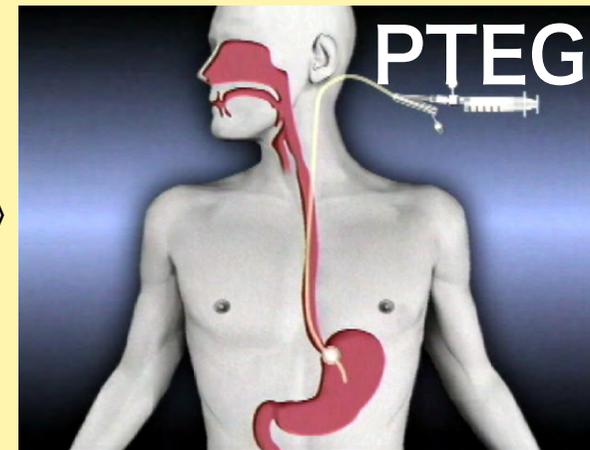
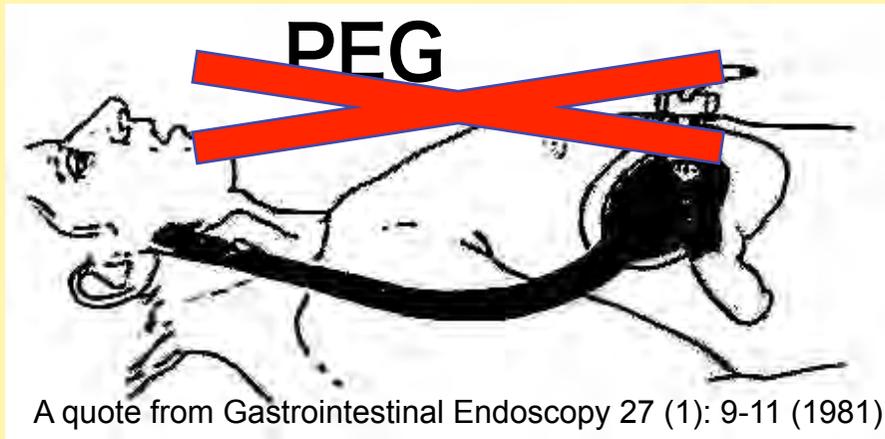
日本医事新報 4248
P33-36, 2005, 9

主な胃管留置法の違い

	NGT	PEG	PTEG
器具	無	内視鏡	超音波,X線透視
挿入部位	鼻孔	腹壁	頸部
固定法	テープ	バンパー	テープorバンド
補助固定	無	Tファスナー 鮎田式固定具	縫合固定
使用開始時期	直後	2~3日後	直後
術後管理と合併症	長期留置にて 潰瘍形成 誤嚥性肺炎	圧迫壊死予防のため 定時的なバンパーの 位置交換が必要	瘻孔完成の 約2週間は縫合固定 以後はテープorバンド
長期留置	困難	可能	可能

2. PTEGの適応

2. PTEGの適応



- PEGの実施不能もしくは困難例に対してPTEGは考案開発された。PEGの代替手段の一つである。
- PTEGの適応を検討する際に、PEGの禁忌を理解することは重要。

2. PTEGの適応

表1 PEGの禁忌 1/2

絶対的禁忌

- ・ 通常の内視鏡検査の絶対的禁忌
- ・ 内視鏡が通過不可能な咽頭・食道狭窄
- ・ 胃前壁を腹壁に近接できない状況
- ・ 補正できない出血傾向
- ・ 消化管閉塞
(減圧ドレナージ目的以外の場合)

(「消化器内視鏡ガイドライン」の経皮内視鏡的胃瘻造設術ガイドラインより抜粋)

2. PTEGの適応

表1 PEGの禁忌 2/2

相対的禁忌	
<ul style="list-style-type: none">• 腹水貯留• 極度の肥満• 著明な肝腫大• 胃の腫瘍性病変や急性粘膜病変• 胃手術,その他の上腹部手術の既往• 横隔膜ヘルニア• 出血傾向	<ul style="list-style-type: none">• 妊娠• 門脈圧亢進• 腹膜透析• 癌性腹膜炎• 全身状態不良例• 生命予後不良例• 非協力的な患者と家族

(「消化器内視鏡ガイドライン」の経皮内視鏡的胃瘻造設術ガイドラインより抜粋)

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 経腸栄養症例



胃切除後症例

日本醫事新報 4239
P33-36, 2005

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 経腸栄養症例



横隔膜ヘルニア

日本医事新報 4239
P33-36, 2005

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 経腸栄養症例



腹水貯留症例

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 腸管減圧症例

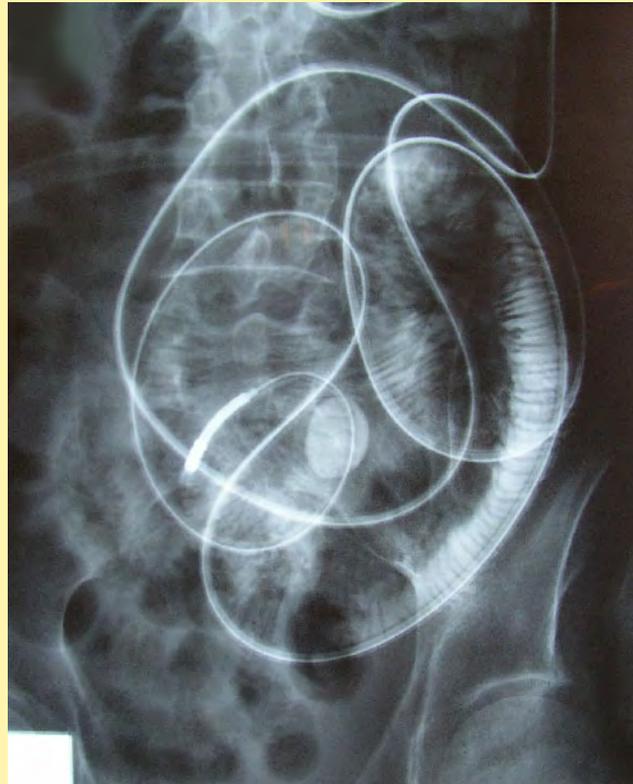


胃の腫瘍性病変
(高度進行胃癌)

日本醫事新報 4239
P33-36, 2005

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 腸管減圧症例



癌性腹膜炎による
腸閉塞症例

日本醫事新報 4239
P33-36, 2005

2. PTEGの適応

PEGの相対的禁忌 腸管減圧症例



癌性腹膜炎による 腹水貯留症例

日本醫事新報 4239
P33-36, 2005

2. PTEGの適応

表2 PTEGの適応

PEGの禁忌例以外の適応

PEGの禁忌例以外の適応

- 嚥下障害を持つ85才以上の超高齢者
- 開腹手術後合併症併発症例
- 脳室腹腔シャント留置症例の腹腔内感染予防目的
- 腹腔内腫瘍により胃壁が圧排されている症例
- 横隔神経麻痺により胃が挙上され
肋弓下に入り込んでいる症例
- PEG合併症併発例 (慢性漏出, 蜂窩織炎など)

2. PTEGの適応

PEG禁忌ではないが
経腸栄養症例



VP-shunt留置症例
(腹腔内感染予防目的)

日本醫事新報 4239
P33-36, 2005